

道内のBDF利用の現状について、元道開発局農業水産部長で、民間主体の研究・普及活動に取り組む北海道バイオエネルギー研究会の山本義弘

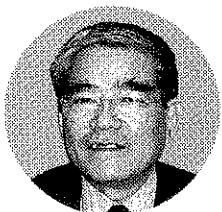
・代表幹事

(60) 西松

建設顧問、

写真に聞いた。

## 道内発の新エネルギーに



で、道内全体の年間製造量は400千トン。道内の軽油の年間使用量(04年度約275万トン)の0.01%程度に過ぎない。これまでは企業や自治体が環境問題への対応と

道内の建設会社や廃棄物処理業者らで2年前に研究会を立ち上げ、地方自治体などへの働き掛けも始めたが、ようやく道

内でも広がりが見えてきた。一昨年から地域の福祉団体などでも、給食で使った廃食油を再利用し、自施設で使用する車の燃料にするケースも増えている。だが、個々の量は微々たるもの

ナタネの栽培を始めた。道内の未利用地にエネルギー

などの収集態勢が整えられれば1億80万程度での製造が可能。原油高騰で100円程度の高値が続く現状の軽油よりは安く、経済性は出てきた。今年中には国内で流通させるBDFの品質規格が固まる。道内では基幹産業の農業とも連携し、菜の花などのエネルギー作物を大量に栽培できるようにすれば、北海道発の新エネルギーとして育て上げることも決して夢ではない。(談)

「ギヤ作物として菜の花を植え、いわば広大な「ナタネ油田」を形成しようという試みだ。

黄色の花が咲き始めた空知管内栗沢町のナタネ栽培地―北海道総合研究調査会提供



昨年9月にまかれた種は今年5月下旬には黄色の花を付け、7月下旬には初めての収穫を迎える。順調にいけば4ト程度のナタネが採取され、2トン程度のBDFが製造できる見込み。今のところは実際の栽培コストがどの程度必要か検証するのが目的。井上真二研究員は「1トン500円」という試算もあるが、食物として栽培するよりはさらに経費を抑えることが可能はずで、コスト的にも十分見合うのではないかと話している。